

**秦野市幼児教育・保育環境整備計画（案）に対する  
パブリック・コメントの実施結果について**

**1 意見募集期間**

令和8年2月1日（日）から3月2日（月）まで

**2 意見募集の周知方法**

広報はだの2月1日号、市ホームページ及び市公式LINE

**3 計画案の公表方法**

- (1) 市ホームページへの掲載
- (2) 公民館、図書館及び駅連絡所における閲覧
- (3) 本庁舎行政情報閲覧コーナーにおける閲覧
- (4) 保育こども園課及び教育総務課における閲覧

**4 意見提出方法**

郵送、FAX、電子メール、電子申請及び持参の方法による

**5 提出された意見の内容及びその取扱い等**

内容分類	件数	意見への対応区分（※）				
		A	B	C	D	E
I 就学前教育・保育の現状	0	0	0	0	0	0
II 将来推計	0	0	0	0	0	0
III 幼児教育・保育環境整備計画	4	0	0	0	1	3
その他全般	11	0	0	5	1	5
計	15	0	0	5	2	8

**※ 意見への対応区分**

- A：意見等の趣旨等を計画案に反映したもの
- B：意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの
- C：今後の取組において参考とさせていただくもの
- D：計画案に反映できないもの
- E：その他（感想、質問等）

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
1	その他	全般	<p>公立園は長きにわたり、子どもや保護者、そして地域を支えてきました。私も支えられた一人です。近年の公立幼稚園の園児の急激な減少は理解しております。</p> <p>兄姉が通っていたから続けて通わせたい方、小学校(中学校)と近く、災害時等の不測の事態に備えたい方、車の運転免許を保有しないため、自宅近くの園を希望する方、そして何よりも、生活の基礎を身に付け、小学校入学に向けて、子ども自身、期待に胸を膨らませてほしいと願い、公立幼稚園に通わせたい方。</p> <p>理由は様々ですが、公立幼稚園入園を希望する保護者はいます。</p> <p>しかしながら、現状、我が子が入園する頃に本当に公立幼稚園が存続しているのか、先の不安を考慮し、3年保育の私立園を選択する保護者がいるのも事実です。</p> <p>私立幼稚園、保育所等の民間園のみならず、公立園を安心して選択できる環境を望みます。</p> <p>&lt;質問1&gt;</p> <p>公立園は小学校と隣接している園が多いが、距離のある民間園や秦野市外の私立幼稚園は、園小接続に関し、どのような連携、取り組みを行っていますか？(特に、園児と小学生の交流において)</p> <p>※ 次ページへ続く</p>	E	<p>まず、&lt;質問1&gt;についてお答えします。</p> <p>本市では、平成28年度から民間園との連携強化を進め、これまで、公私や園種の枠を超えた連携強化を図るため、令和3年度から接続のためのカリキュラムを作成したほか、特に、令和6年度に設置した「乳幼児教育センター」を中心に、民間園の園長と小中学校の管理職が一堂に介した「育ちと学びの架け橋会議」を年2回開催し、中学校区ごとに「交流」から始めて「連携」へと進み、最終的に「接続」という形で一貫性のある関係構築を目指しています。</p> <p>なお、具体的な交流の例を紹介しますと、今年度は、渋沢小学校とこひつじ保育園、虹と風保育園との酪農体験等の交流を実施しています。次年度は、交流の全市的な展開を図り、さらに、令和9年度からは、市外の保育園との連携にも着手する予定です。</p> <p>※ 次ページへ続く</p>

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
1	その他	全般	<p>※ 前ページから続き</p> <p>&lt;質問2&gt;                      秦野市幼児教育・保育環境整備計画P9、P11にある「民間園の力を最大活用」とありますが、民間園の力とは、どの様な力か、具体的にご教示願います。</p> <p>公立幼稚園の在園児の保護者でも働いている方が多くいる為、充実した預かり保育はとても利用しやすいと思います。                      入園と同時に仕事を始める保護者の為にも、市がしっかりと情報を伝える事も大切なのではないのでしょうか。</p> <p>公立幼稚園では、現状、1クラス20人に満たない園が多くありますが、在園児の充実した園生活を望みます。                      「望ましい集団生活」を過ごす為にも、2年間という限られた時間の中で、秦野市として取り組めることがあれば良いと思います。</p>	E	<p>※ 前ページから続き</p> <p>次に、&lt;質問2&gt;についてお答えします。                      本市には、民間の幼稚園、認定こども園、保育所等が数多く存在します。公立園だけでは補いきれない市民からの利用希望に応えられるよう、施設の利用定員数を確保することや、それぞれの民間園において特色ある取組を行っており、その取組を目的に入園を希望する市民もいること等から、それらを民間園の力と表現しています。</p> <p>園児たちが卒園した後の小学校では、1学級当たり30人程度の集団生活となります。園児数が減少することによって集団性が確保できない場合、小学校に入学したこどもたちが戸惑いを受けることが懸念されます。また、園児数に基づいて職員が配置されるため、職員数が少なくなることで、職員の指導力に係る研修機会の確保や園運営での負担等の面で懸念が生じています。                      このようなことから、園児数の状況によっては、施設の配置の見直しを検討して、将来の園児たちのために、持続可能な幼児教育・保育環境を整えていきます。</p>

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
 C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
2	その他	全般	<p>昨今、子どもの多様化が進展していることに伴って、子どもたち一人ひとりの個性、可能性を引き出すために、多様な対応の必要性が高まっています。このことに関連して、少人数学級のメリットが証明されたデータや様々な事例もあり、また、令和3年度には、公立の小学校の学級編成の標準人数が40名から35名に引き下げられています。これは、小学校の変化ですが、幼児期における学級編成も、少人数を最適とすることの重要性が高まってくるのではないかと思います。</p> <p>この計画案では、幼稚園の最適な集団の人数(1クラス20名)が示されていましたが、これは平成23年の調査と記されています。普遍的な数であるかもしれませんが、14年前のデータであり、少子化の影響で、この人数のクラスを実現できる環境は、全国的にも減少していることでしょう。そのような状況で、最適な集団の人数ではないからといって、この人数を基準のようにして、閉園・統合等を検討して本当に正しいのか、疑問に感じました。個別・少人数・集団、それぞれのメリットデメリットはありますが、少子化や多様性のその先の時代にも合った対応をいま一度考え直していただきたいです。</p> <p>また、公立幼稚園の中立的な教育方針は、多様な子どもの受け入れが可能であり、また、地域に根差している点</p> <p>※ 次ページへ続く</p>	C	<p>御意見をいただいたとおり、少人数学級の重要性については、教育委員会としても認識をしています。また、公立幼稚園の園児数が減少する中で、支援の必要な園児は年々増えており、外国につながるの園児を受け入れるケースも増えつつあります。このように、多様なこどもの受入れ先の一つとして、公立園が選ばれてきたことは、大きな意味があったと考えています。</p> <p>一方で、卒園後の小学校では、現在の配置基準により、1学級当たり30人程度の集団生活が始まり、小集団から小学校に入学した際の、こどもたちが受ける戸惑いは、人数が少ない公立園とともに、民間園でも大きな課題ではないかと懸念を持ってきたことも事実です。</p> <p>現に、これまで思春期の課題であった不登校は、小学校でも増加の一途をたどり、本市においても、コロナ禍以降、懸念を抱き続けてきた小学校1年生の不登校は、令和5年度には12人と激増しています。本市では、公立幼稚園の在園児の減少に伴い、徐々に関係強化を続けてきた民間園との連携を更に強化しており、全国的には、依然として不登校が増加している中で、現在、本市では、小学校1年生の不登校は半減しています。</p> <p>「群れて育つ」という言葉もありますが、少人数の良さも理解しつつ、集団性の確保も大事な要素であると、現状判断してきました。</p> <p>こうした少人数の良さや集団性の確保のバランスを踏まえ、園児数が更に減少していき、定員の半分以下となる</p> <p>※ 次ページへ続く</p>

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
2	その他	全般	<p>※ 前ページから続き</p> <p>から小学校と交流しやすいと感じ、園小接続において、保護者としてもとても心強いです。様々な園を統合等することで、このような多様な対応ができる環境、地域とのつながりが変化した場合、すべての子どもたち、保護者は安心できるのか。子どもの可能性を引き出すためにも、子どもと保護者にたくさんの選択肢が必要です。特例ですが、上幼稚園は、少人数で、園小接続もスムーズに違いのない環境で、少人数だからこそ、選択している方も友人におります。</p> <p>このように秦野市内で少人数クラスの継続を実現している園をモデルとして、少人数の強みとスムーズな園小接続をすすめて、秦野市の幼児教育の特色のひとつになることを期待します。</p> <p>様々な園児が集まって小学校へ入学した時には、多様化がより濃く、インクルーシブな環境になります。幼児期の環境が同じようなインクルーシブな環境であれば、園小の段差は小さくなるので、人数に左右されないで、多様な対応ができる様々な環境をこれからも大切にしていってほしいです。</p> <p>子ども一人ひとりに合った、様々な教育環境があることで親子とも安心できると思います。本当に素敵な場所を残していただく。</p>	C	<p>※ 前ページから続き</p> <p>4・5歳児ともに、1学級当たり10人を下回った園は、配置の見直しを検討していくこととなります。また、現状の園運営では、園児数に基づいて職員が配置されており、職員数が少なくなること、職員の指導力に係る研修機会の確保や園運営での負担等の面で懸念が生じています。公立園の再編等に合わせて、園小接続の中核施設として拠点園化を図りながら、公立園の教育利用における3年保育をはじめとした保育サービスの充実に向け、財政負担にも配慮する中で検討し、持続可能な幼児教育・保育環境を整えていきます。</p>

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
3	その他	全般	ウェルビーイングという言葉が教育振興基本計画には記載されていて、この計画には記載されていないが、何か意図はあるか。	E	本計画は、公立園の配置の在り方が主な内容となっているため、より広範囲な内容となっている教育振興基本計画に『ウェルビーイング』を記載しています。
4	その他	全般	民間園との処遇の違い(バス送迎や保育料に対する補助金など)が影響して、公立園の園児数が少なくなっている。また、幼稚園教諭の処遇にも配慮しなければならないので、急な閉園はできないと思う。	C	公立園の再編等に合わせて、園小接続の中核施設として拠点園化を図りながら、保育サービスの充実を検討します。また、幼稚園教諭の処遇への配慮については、今後の参考とさせていただきます。
5	その他	全般	民間園も含めて市内の保育園が増え始めたときに、私は家庭的保育事業をもっと増やした方がいいと提案してきた。この部分についても、検討して欲しい。	C	新たな家庭的保育事業の設置については、今後のニーズを見極めながら、保育の見込みと確保量を踏まえた「こども計画」において、計画していきます。
6	Ⅲ-4-(5)	P11	「公立園の教育利用における3年保育をはじめ」とあるが、これまでも要望があった中、ここに来て3年保育を検討する理由はどのようなか。どのような条件がクリアされたら実現ができるのか。	E	本市では、これまで公立園と民間園が手を取り合いながら、環境整備を進めてきており、公立幼稚園で3年保育を実施することについては、民間園への影響も少なくないと考えてきました。一方で、近年、子育て環境の変化やそれに伴う国による制度設計の変更、また、少子化の進行などで、教育・保育施設を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えています。今後は、縮充という考え方の中で、公立園を単純に減らしていくということではなく、公立幼稚園の給食導入や一時預かりの拡充など、保育サービスの充実という視点に加え、小学校との接続強化を考えた場合、公立園が隣接・近接しているという立地環境や多様なニーズにできてきたという強みも踏まえ、園小接続の中核施設としての拠点園化を図りながら、財政負担にも配慮する中で、3年保育の導入を検討していきます。

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
7	その他	全般	本計画は、少子化を想定して縮充という考え方をメインとしていると思われるが、その一方で本市では移住定住施策によって子育て世代の転入を模索する取組がある。高齢化率の高まりによって空き家も大幅に増加し、縁辺部からの過疎化が進行すると想定される。よって、幼児教育・保育環境整備によって子育て世代を流入する取組が重要であると考え。全庁的に子育て世代向けの環境整備を充実させてほしい。	C	御意見は、「総合計画」や「こども計画」など、子育て世帯を支援する計画と連携しながら、今後の参考とさせていただきます。
8	Ⅲ-5	P11-21	南幼稚園、東幼稚園については、4・5歳児ともに、1学級当たりの園児数について10人を下回る公立幼稚園が、令和10年度(2028年度)から顕在化する見込みとある。いずれも配置の見直しを検討し、持続可能な幼児教育・保育環境を整えている。一方、「北幼稚園は計画期間内において、4・5歳児ともに、1学級当たりの園児数が10人を超える見込みですが、見込みよりも園児数が減少する可能性もあり、先行きが不透明な状況です。」また「西幼稚園は計画期間内において、4歳児は1学級当たりの園児数が10人を下回りますが、5歳児は10人を超える見込みです。しかし、北幼稚園と同様に、見込みよりも園児数が減少する可能性もあり、先行きが不透明な状況です。」とのことであるが、既存の幼稚園の先細りは、予想できたことである。今後は、状況を静観していくのではなく、公立園自らが進化するために本市が抜本的な需要の拡大と良質な幼児・保育環境を整備していくことが望まれると思うがどうか。	E	今後は、縮充という考え方の中で、公立園を単純に減らしていくということではなく、公立幼稚園の給食導入や一時預かりの拡充など、保育サービスの充実という視点に加え、小学校との接続強化を考えた場合、公立園が隣接・近接しているという立地環境や多様なニーズに応じてきたという強みも踏まえ、園小接続の中核施設としての拠点園化を図りながら、財政負担にも配慮する中で、秦野の幼児教育の伝統を進化させるため、中長期的に公立園の在り方を検討しています。

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
9	Ⅲ-5	P24	「地区内の民間園の入所状況を踏まえながら、ひろはたこども園及びつるまきこども園について、再編等も含めた今後の在り方について、検討します」とあるが、極めて抽象的な表現である。これでは具体の方向性が把握できないと思うがどうか。	E	東部(大根・鶴巻)地区においては、入所希望者数が入所定員を下回る時期を、令和15・16年頃と見込んでいることから、本計画の期間外となります。そのため、本計画の期間内においては、今後の在り方等の検討を行うこととしています。
10	Ⅲ-5	P25	「西部においては、特に乳児定員が不足しており、この状況は当面続く見込みです。」とあるが、そもそも本市の場合は出生数も少ない、したがって乳児数は数的に少ないので、乳児だけに特化するのではなく、既存の公私園で乳児定員を増やせば対応できるのではないかと思うがどうか。	D	本計画における方向性の中で、民間園の力を最大活用していくことを位置付けています。 本市における未就学児の就園率は年々上昇しており、出生数が減少している中でも、女性の社会進出が進んでいることが考えられます。そのため、保育需要に対する対応については、民間園における定員拡大や弾力運用を第一に考えていますが、園の人材確保やスペースの問題により対応が困難な場合は、地域型保育事業の設置(テナント等での整備)も必要と考えています。
11	その他	全般	10年前に実施したアンケートでは、公立幼稚園をもっと展開して欲しいという意見があったと聞いている。将来的に、公立幼稚園において3年保育の導入はあるのか。	E	本市では、これまで公立園と民間園が手を取り合いながら、環境整備を進めてきており、公立幼稚園で3年保育を実施することについては、民間園への影響も少なくないと考えてきました。一方で、近年、子育て環境の変化やそれに伴う国による制度設計の変更、また、少子化の進行などで、教育・保育施設を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えています。 今後は、縮充という考え方の中で、公立園を単純に減らしていくということではなく、公立幼稚園の給食導入や一時預かりの拡充など、保育サービスの充実という視点に加え、小学校との接続強化を考えた場合、公立園が隣接・近接しているという立地環境や多様なニーズに答えてきたという強みも踏まえ、園小接続の中核施設としての拠点園化を図りながら、財政負担にも配慮する中で、3年保育の導入を検討していきます。

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの

C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)

「秦野市幼児教育・保育環境整備計画(案)」に対するパブリック・コメントに寄せられた市民からの御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
12	その他	全般	少子化の中、行政が民間園の存続も含めて考えた場合、どうしても公立園を閉園していく方向になっていく。本市における幼児教育・保育は、100年以上の伝統があるが、公立園は、将来的に1園だけ残して他は閉園するのか、それとも全て閉園する方向なのか。	E	公立園は、園小接続の中核施設として、拠点園化を図っていく方向で考えています。そのため、園小との接続や連携強化などを拠点となる園が受け継ぎつつ、民間園にもその手法等を広めていきます。
13	その他	全般	民間園では受入れが難しい支援が必要な児童について、公立園では統合教育を担ってくれていて、ありがたく思う。	E	公立園においても、現状の施設の環境や職員の受入れ体制に限度がありますので、保護者のニーズ全てに対して対応できるわけではありませんが、今後も、支援が必要な園児の受入れを可能な限り行っていきます。
14	その他	全般	公立園を最低限、残してほしいが、縮小していくことは、仕方がないことであると思っている。公立園の縮小によって、公立園教諭の働き場所がなくなってしまうか心配である。支援が必要な児童への対応に対する研修等を受講してもらい、障害福祉課と連携することなどが考えられる。今後の公立園教諭の方向性について、計画に記載して欲しい。	D	本計画は、幼児教育・保育の環境について、主に公立園の配置の在り方を示したものとなります。そのため、今後の公立園教諭の人事配置等の方向性については、関係各課と連携して別に検討を進めていきます。
15	その他	全般	民間園では入園できないケースが多くあると聞くので、公立園を残してほしい。	C	近年、公立園において、支援が必要な園児を受け入れるケースが年々増えている現状にありますので、一定数のニーズがあることは認識しています。御意見は参考とさせていただきます。

【区分】

A:意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B:意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの

C:今後の取組において参考とさせていただくもの D:計画案に反映できないもの E:その他(感想、質問等)